

第3章 2022年透析導入患者の動態

1. 臨床背景

2022年の患者調査票において、年齢と性別の記載が確認された導入患者数は37,039人であった。男性は25,785人、女性は11,254人で、導入患者の平均年齢は全体が71.42歳、男性が70.76歳、女性が72.92歳であった（図14、補足表14）。導入患者の平均年齢も慢性透析患者と同様、年々高齢化している（図15、補足表15）。最も割合が高い年齢層は、男性が70～74歳で、女性は80～84歳であった。

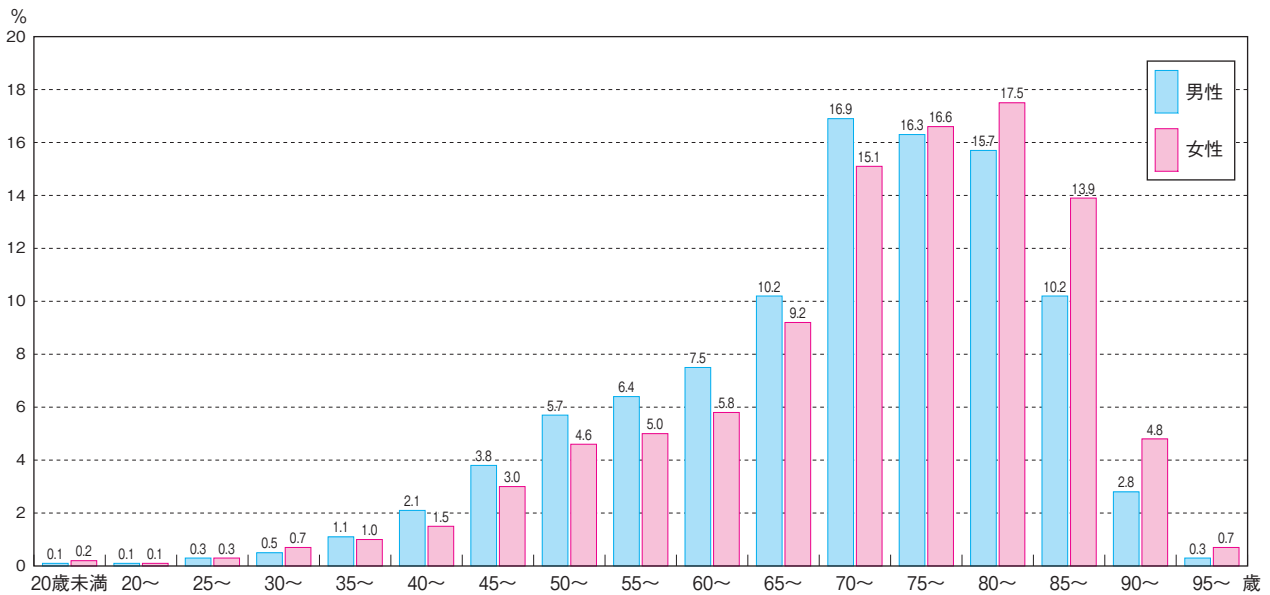


図14 導入患者 年齢と性別, 2022

(患者調査による集計)

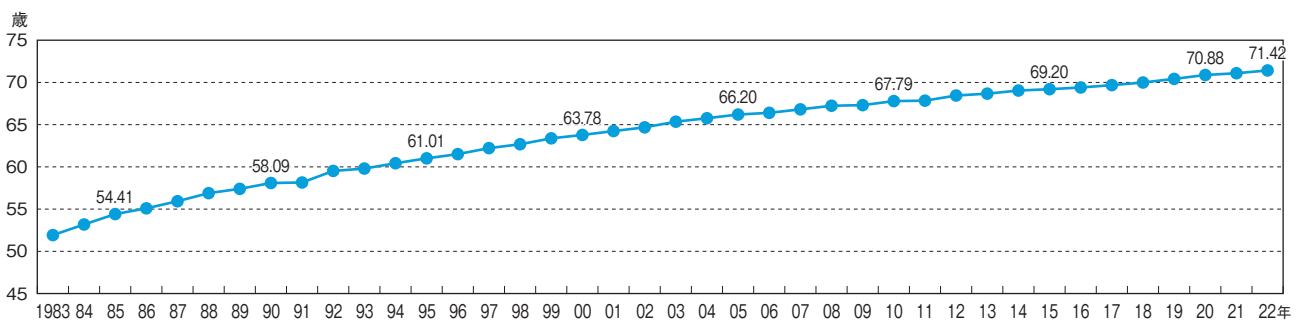


図15 導入患者 平均年齢の推移, 1983-2022

(患者調査による集計)

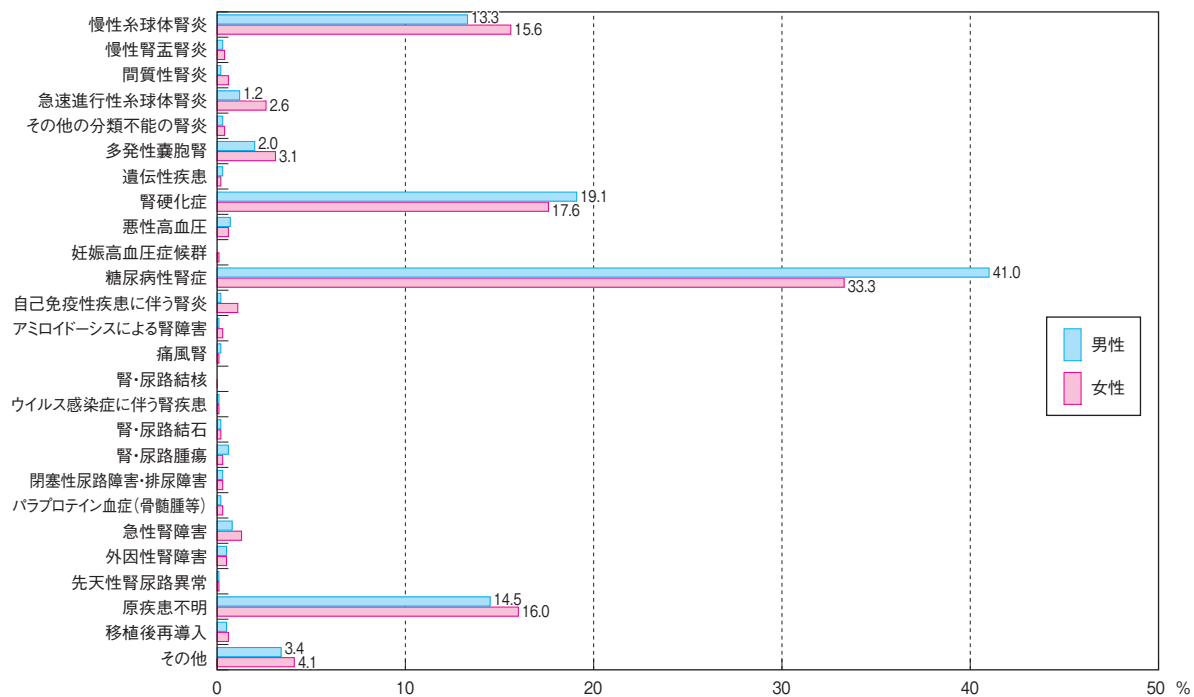


図 16 導入患者 原疾患と性別，2022

(患者調査による集計)

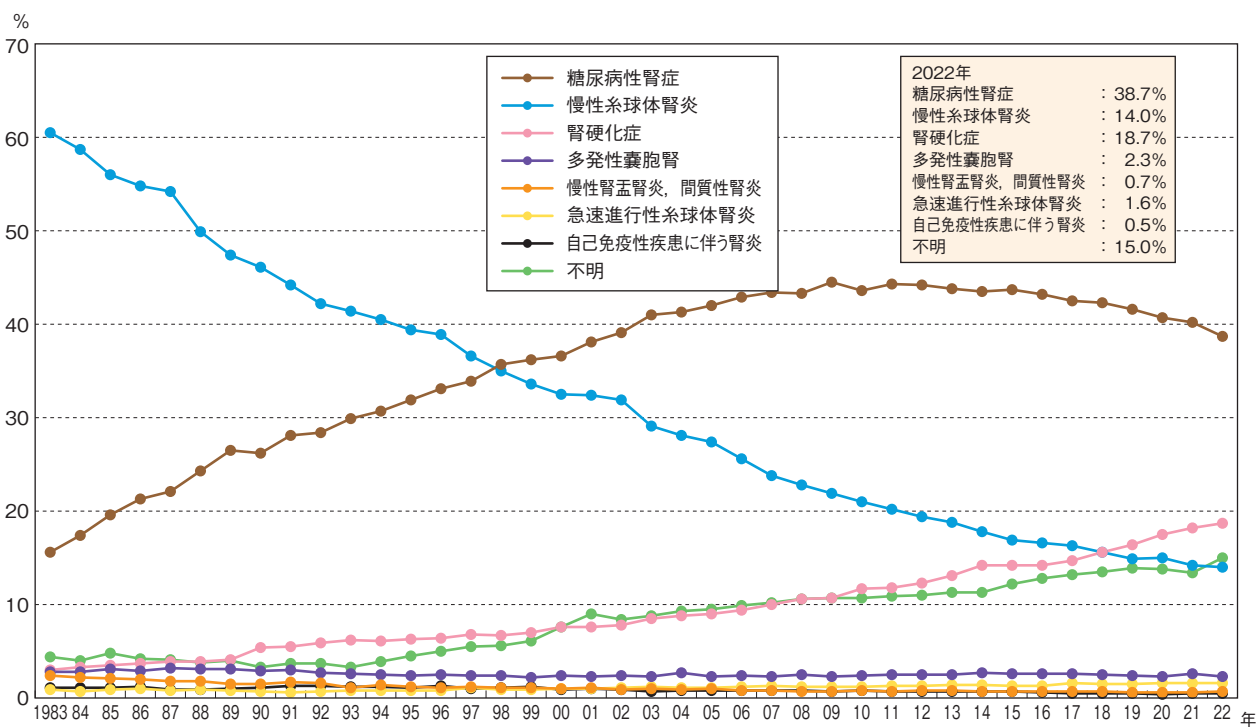


図 17 導入患者 原疾患割合の推移，1983-2022

(患者調査による集計)

2022年導入患者の原疾患で最も多いのは糖尿病性腎症で38.7%，次いで腎硬化症の18.7%，慢性糸球体腎炎の14.0%であり，2019年に腎硬化症が慢性糸球体腎炎に代わって第2位となって以降も，腎硬化症の持続的な増加が目立つ。原疾患不明は15.0%であった（図16，補足表16）。導入患者の原疾患は，1998年に慢性糸球体腎炎に代わって糖尿病性腎症が原疾患の第1位になって以来，一貫して増加していたが，近年は慢性糸球体腎炎と同様に減少傾向が続いている（図17，補足表17）。

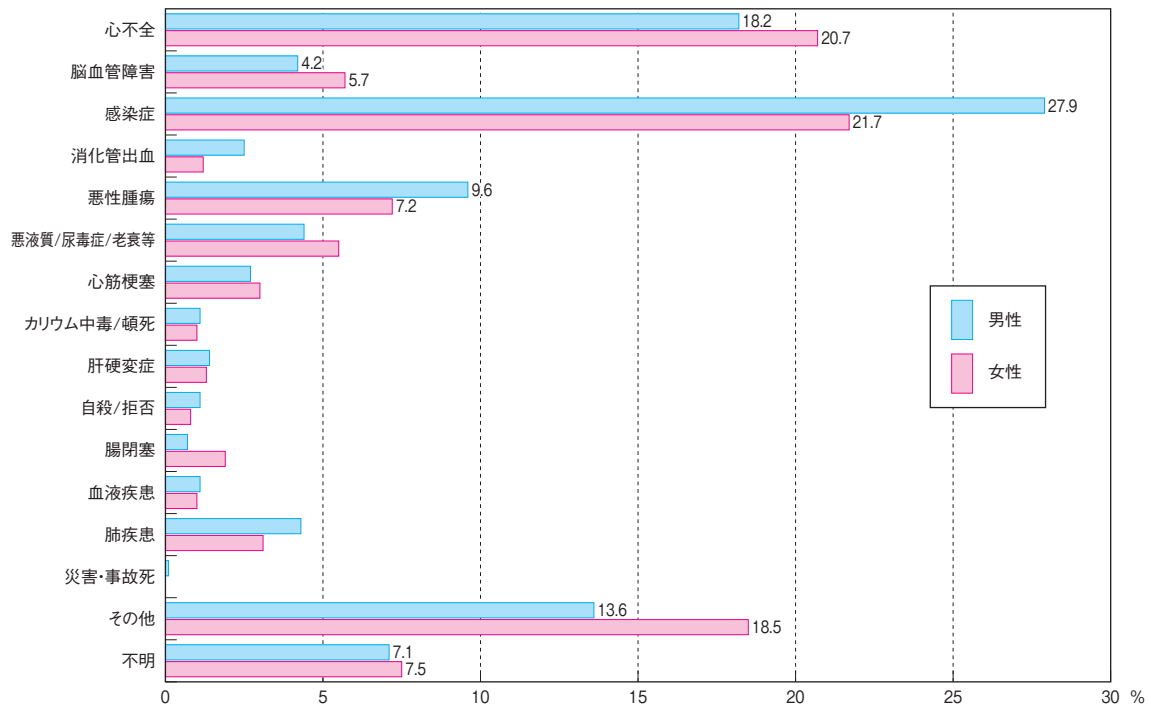


図 18 導入患者 死亡原因と性別, 2022

(患者調査による集計)

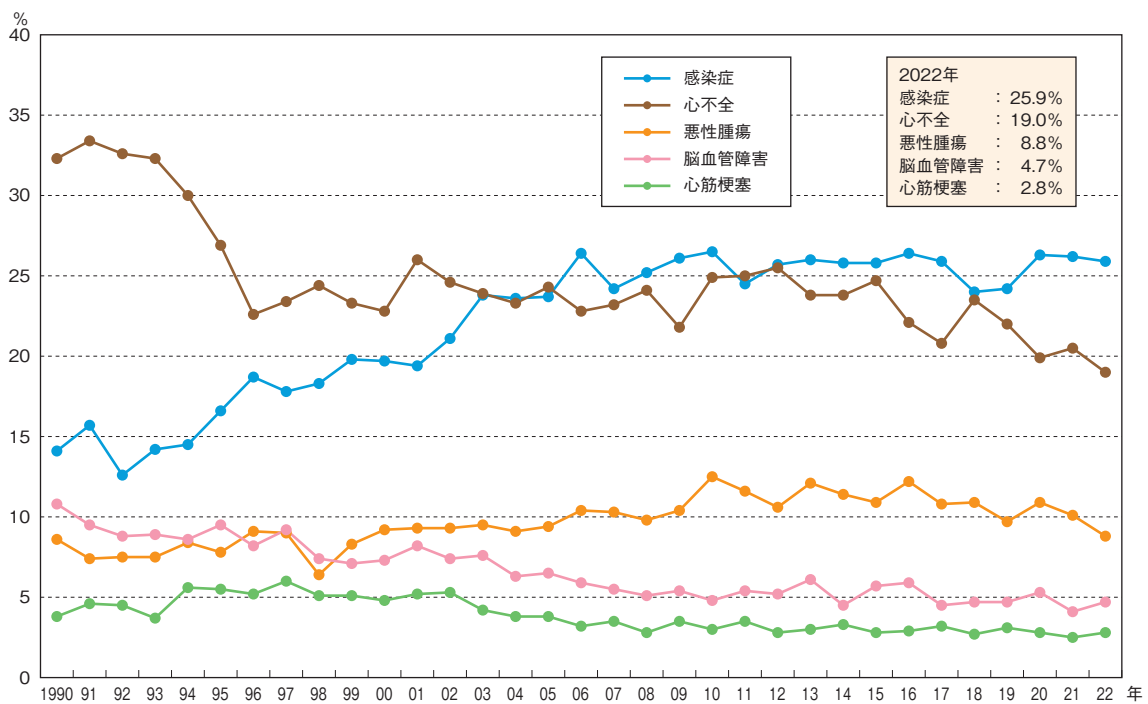


図 19 導入患者 死亡原因割合の推移, 1990-2022

(患者調査による集計)

2. 死亡原因

2022年導入患者の導入年内の死亡原因は、全体では感染症が25.9%と最も多く、次いで心不全が19.0%、悪性腫瘍が8.8%、悪液質/尿毒症/老衰等が4.8%、脳血管障害が4.7%であった。心血管死の合計は26.4%に漸減した(図18, 補足表18)。透析導入年内の死亡原因の推移をみると、1990年代は心不全が最も多かったが、感染症が徐々に増加し、2006年頃から感染症が最も多い死因となった。脳血管障害による死亡は、2006年以降4~5%を推移している(図19, 補足表19)。